

評価およびレポートについて

●評価

期末レポート+平常点（感想文）で評価。

●期末レポートのテーマ：

次のいずれか一つの課題を選択し、レポートを作成してください。

（１） 教育哲学概説のレジュメ作成

あなたは教育哲学概説の担当者として授業を任されることになりました。自由にテーマを設定して、授業のレジュメを作成してください。

本授業のレジュメを参照のこと。

また、必要であれば、レジュメの上に、授業担当者による書き込みを（「ここでこういう問いを投げかける」など）してください。

20■■■年度教育哲学概説
課題レポート
■■■（タイトル）■■■
所属 ■■■■
学生番号 ■■■■
氏名 ■■■■■■■■

（２） 感想レポートの作成

テキスト（山名淳『都市とアーキテクチャの教育思想』勁草書房、2016年）のいずれかの章（複数の章もしくは著作全体でもかまわない）を読み、その感想を述べると同時に、教育とアーキテクチャについて自らの見解を展開してください。

●レポートの条件（課題(1)(2)とも共通）

・表紙をつけて、タイトルをつけること（右図を参照）。大学指定の表紙があればそちらを用いることも可。

・A4版横書き、2枚から6枚程度で作成してください。

・作成後の感想を簡単にまとめて添付してください（200字から400字程度）。

・ワープロ書き、手書きのどちらでもかまいません。

・提出日・提出先：1月22日締め切り、提出先は教育学部事務室（1階）学生支援チーム
課題レポート提出用ボックス

<レポート見本> *課題(1)について

書き込み用

第Ⅲ講 野性を文明化する物語

—教育の両義性について—

本講のねらい → 1時間かけて読選すること (教育には光の部分と闇の部分がある) 2つを購読できない。

- 前置: アマラとカマラ
- ① 教育の両義性について、野性を文明化する典型的な話(「アヴェロンの野生児」)をとおして考えてみる。
 - ③ 教育学は、伝統的に「善なる営み」としての教育の側面を強調してきた。近年、国内外を問わず教育そのものの自明性に懐疑を投げかけるような議論が教育学においても展開されている。教育の両義性を理解することは、教育学の標準的な課題でもあり、また教育実践に携わるうえでも重要である。

今日の予定
① 説明 20分
② ビデオ 30分
③ 説明 10分
→ 感想文

1 野生児の物語—教育学が好んで参照する話

(1) 典型的な二つの事例

- ① アマラとカマラ → 書いたことがある人(著者) どういう文脈でこの話がとりあげられているか。
インドの狼の洞窟で女の子二人が発見された。アメリカ人心理学者ゲゼルがその成長記録として『狼に育てられた子』(1941年)を発表。

「カマラとアマラ」の話

1920年10月 英国領インドの小さな村ゴタムリで「発見・救出」
発見者シング牧師 (cf.『狼に育てられた子』福村出版、1977年)
2匹の仔狼とともに二人の人間に似た「化け物」
母親狼は、射殺

大きい子 (推定8歳)

小さい子 (推定1歳半)

↓
カマラ (桃色の蓮の花) と命名

↓
アマラ (明るい黄色の花) と命名

↓
1929年11月、尿毒症のため死亡

↓
「救出」後約1年後、腎臓炎で死亡

→ 2匹の仔狼
→ 夜間の仔狼
→ 思考訓練
→ 学習
→ 観察

② アヴェロンの野生児

南フランスのアヴェロンの森で人間の子どもが発見された。フランス人医学者イタールは、彼の教育を試み、その記録を公表した(1794年)。
* 詳しくはビデオで。

(2) なぜ教育学は野生児の話をお好むのか—伝統的な教育学的解釈 (cf.西平 1998)

「遺伝と環境」というテーマの枕として、カマラとアマラの話が。結論はこう。遺伝的には人間に生まれても、環境が適切でないと人間として育たない。家庭の重要性、文化の重要性。ホスピタリズムへ。

※ 真偽はわからない。ただこの注目したいのは、「アマラとカマラ」の話が好んでとりあげられてきたという点。